

第5回 大宮公園ランドデザイン検討委員会

資料

県民への意見募集の結果（概要）

大宮公園ランドデザイン（案）

1. 大宮公園ランドデザインのねらい	1
2. 大宮公園及び周辺地域の現状	2
3. 大宮公園をめぐる背景	5
4. 大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項	6
5. 大宮公園の将来像.....	8
6. 将来像の実現に向けた施策	9
7. 将来像のイメージ	10

平成 31 年 1 月 30 日

大宮公園ランドデザイン検討委員会

これまでの委員会資料はすべて、埼玉県の HP に掲載されています。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/a1105/oomiyagd.html>

大宮公園ランドデザイン検討委員会 検討スケジュールについて

	委員会開催実績・予定	
平成 29 年度 (2 回)	10 月 17 日	第 1 回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> 大宮公園及び周辺地域の歴史、現状等の確認
	2 月 7 日	第 2 回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> 大宮公園の課題の整理 大宮公園ランドデザインの基本的な考え方の確認
平成 30 年度 (3 回)	5 月 18 日	第 3 回検討委員会 <ul style="list-style-type: none"> 大宮公園の 5 つの特性 (テーマ) の抽出
	9 月 13 日	第 4 回検討委員会 (中間とりまとめ) <ul style="list-style-type: none"> 大宮公園の将来像、イメージ及び実現に向けた施策等の確認
	10 月 25 日 ~ 11 月 22 日	県民への意見募集
	1 月 30 日	<u>第 5 回検討委員会</u> (最終とりまとめ)

県民への意見募集の結果（概要）

意見募集の実施概要

件名	大宮公園ランドデザインに対する意見募集																																																																																										
募集期間	平成30年10月25日（木）～平成30年11月22日（木）																																																																																										
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> 県ホームページ 公園スタジアム課、大宮公園事務所 地域振興センター（11箇所） 																																																																																										
募集方法	郵便、ファクシミリ、電子メールのいずれかで提出																																																																																										
提出者数	126名（個人117名、法人名9名）																																																																																										
意見数	400件																																																																																										
意見者の所在	<ul style="list-style-type: none"> さいたま市内：87名（71%） 埼玉県内（さいたま市を除く）：26名（21%） 埼玉県外：7名（6%） 不明：3名（2%） 																																																																																										
意見のテーマ	<p>ご意見のテーマは「スタジアム」に関するものが最も多く、400件中137件を占めた。</p> <p style="text-align: center;">表 意見のテーマと件数</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>件数</th> <th>%</th> <th>テーマ</th> <th>件数</th> <th>%</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スタジアム</td> <td>137</td> <td>34.3%</td> <td>動線</td> <td>7</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>施設整備</td> <td>34</td> <td>8.5%</td> <td>委員会運営</td> <td>6</td> <td>1.5%</td> </tr> <tr> <td>スポーツ</td> <td>30</td> <td>7.5%</td> <td>地域連携</td> <td>5</td> <td>1.3%</td> </tr> <tr> <td>ゾーニング</td> <td>20</td> <td>5.0%</td> <td>回遊ルート</td> <td>5</td> <td>1.3%</td> </tr> <tr> <td>アクセス</td> <td>18</td> <td>4.5%</td> <td>公園運営</td> <td>4</td> <td>1.0%</td> </tr> <tr> <td>資料</td> <td>15</td> <td>3.8%</td> <td>区域設定</td> <td>3</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>周辺道路</td> <td>15</td> <td>3.8%</td> <td>公園名称</td> <td>3</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>現状の課題</td> <td>13</td> <td>3.3%</td> <td>民間参入</td> <td>3</td> <td>0.8%</td> </tr> <tr> <td>親水空間づくり</td> <td>13</td> <td>3.3%</td> <td>河川施設の活用</td> <td>1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>魅力発信</td> <td>12</td> <td>3.0%</td> <td>サービス拠点</td> <td>1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>動物園</td> <td>10</td> <td>2.5%</td> <td>博物館</td> <td>1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>飲食・宿泊</td> <td>10</td> <td>2.5%</td> <td>夜間利用</td> <td>1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>環境</td> <td>7</td> <td>1.8%</td> <td>遊戯施設</td> <td>1</td> <td>0.3%</td> </tr> <tr> <td>樹木</td> <td>7</td> <td>1.8%</td> <td>その他</td> <td>18</td> <td>4.5%</td> </tr> </tbody> </table>	テーマ	件数	%	テーマ	件数	%	スタジアム	137	34.3%	動線	7	1.8%	施設整備	34	8.5%	委員会運営	6	1.5%	スポーツ	30	7.5%	地域連携	5	1.3%	ゾーニング	20	5.0%	回遊ルート	5	1.3%	アクセス	18	4.5%	公園運営	4	1.0%	資料	15	3.8%	区域設定	3	0.8%	周辺道路	15	3.8%	公園名称	3	0.8%	現状の課題	13	3.3%	民間参入	3	0.8%	親水空間づくり	13	3.3%	河川施設の活用	1	0.3%	魅力発信	12	3.0%	サービス拠点	1	0.3%	動物園	10	2.5%	博物館	1	0.3%	飲食・宿泊	10	2.5%	夜間利用	1	0.3%	環境	7	1.8%	遊戯施設	1	0.3%	樹木	7	1.8%	その他	18	4.5%
テーマ	件数	%	テーマ	件数	%																																																																																						
スタジアム	137	34.3%	動線	7	1.8%																																																																																						
施設整備	34	8.5%	委員会運営	6	1.5%																																																																																						
スポーツ	30	7.5%	地域連携	5	1.3%																																																																																						
ゾーニング	20	5.0%	回遊ルート	5	1.3%																																																																																						
アクセス	18	4.5%	公園運営	4	1.0%																																																																																						
資料	15	3.8%	区域設定	3	0.8%																																																																																						
周辺道路	15	3.8%	公園名称	3	0.8%																																																																																						
現状の課題	13	3.3%	民間参入	3	0.8%																																																																																						
親水空間づくり	13	3.3%	河川施設の活用	1	0.3%																																																																																						
魅力発信	12	3.0%	サービス拠点	1	0.3%																																																																																						
動物園	10	2.5%	博物館	1	0.3%																																																																																						
飲食・宿泊	10	2.5%	夜間利用	1	0.3%																																																																																						
環境	7	1.8%	遊戯施設	1	0.3%																																																																																						
樹木	7	1.8%	その他	18	4.5%																																																																																						

主な意見の概要

県民からの意見のうち、特に件数が多かったものや、ランドデザインの修正に関わると考えられるものについて、以下のとおり概要を整理した。

テーマ	主な御意見	対応の方向性（案）
スタジアム	<ul style="list-style-type: none"> NACK5 スタジアム大宮をなくすことに反対 サッカー専用スタジアムの臨場感に価値があり、多機能スタジアムに反対 <p>（以上、同様の意見多数）</p>	<ul style="list-style-type: none"> レクリエーションスポーツの広場において、今ある施設を直ちに廃止するものではないため、「今ある競技施設は、老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設が役割を終える時点において、その後のあり方を検討する」と記載した。 多機能スタジアムは、「多種目」ではなく、飲食や宿泊など複合的なサービス機能を有するという意図であるため、「多機能スタジアム」は原案のままとし、多機能スタジアムとは、「従来のスタジアムの機能だけでなく、飲食、宿泊、教育、医療、福祉等、地域のニーズに応じたサービス機能を備えたスタジアム」であることを記載した。
スポーツ・施設整備	<ul style="list-style-type: none"> 野球場は市営球場と統合した方がよい 年間利用者数から言えば、双輪場とサッカー場を残すべき 公園内に競輪場は不要 弓道場は存続してほしい 双輪場を有効活用すべき 	<ul style="list-style-type: none"> 将来のスポーツの動向は予測しきれないため、特定のスポーツ種目は想定せず、「時代の趨勢に応じたスポーツの場」としている。 ランドデザインの目的は、主に将来像やゾーニングの基本的な考え方を示すものであり、具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、今後の検討課題である旨を明記した。
今後の進め方	<ul style="list-style-type: none"> 施設の撤去や整備はいつを想定しているのか 	<ul style="list-style-type: none"> 将来像の実現に向けたステップとして、今後の公園づくりの進め方を検討・整理した。

大宮公園ランドデザイン（案）

大宮公園ランドデザインの構成

1. 大宮公園ランドデザインのねらい

1.1 背景と目的

1.2 対象範囲

2. 大宮公園及び周辺地域の現状

2.1 大宮公園の概要

2.2 地形特性

2.3 利用状況

2.4 大宮公園の歴史

2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

3. 大宮公園をめぐる背景

3.1 社会動向

3.2 主な関連計画

3.3 大宮公園へのニーズ

4. 大宮公園ランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

4.1 5つの要素（大宮公園の特性）

4.2 2つの視点と5つの方向性

5. 大宮公園の将来像

6. 将来像の実現に向けた施策

6.1 氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観・歴史の継承

6.2 みどりの機能とオープンスペースの確保

6.3 魅力ある公園文化の創造

6.4 持続可能な公園運営のしくみづくり

6.5 公園を核とした地域のにぎわいづくり

7. 将来像のイメージ

7.1 将来像のイメージ

7.2 ゾーンごとの施策

7.3 イメージスケッチ

（参考）将来像の実現に向けて

1. 大宮公園グランドデザインのねらい

1.1 背景と目的

(1) 背景

大宮公園は、1873（明治6）年の太政官布達を受け、1885（明治18）年に開設された、埼玉県初の県営公園である。氷川神社の境内地の一部を官営化し、公園として開園して以来、130年を超える歴史を有する。時代の要請に応じて整備・拡張が続けられ、行楽地や桜の名所、スポーツ・レクリエーションの拠点などの役割を果たしてきた。特に、1921（大正10）年に、「日本の公園の父」と称される本多静六博士と、田村剛博士が策定した「氷川公園改良計画」では、桜の植栽や公園の拡張、舟遊池、運動場等を整備する計画が提案され、公園の整備・拡張が進められた。現在においても、自然景観の保全や経済振興を図ろうとしたその理念と、公園の骨格が引き継がれている。

昭和期になって本格的な公園整備が進められ、野球場・陸上競技場兼双輪場等が建設された。戦後になると、プールや体育館、サッカー場などのスポーツ施設が整備されるとともに、第二公園・第三公園が整備され、現在は約68haが供用されている。現在、年間約200万人の来訪者を集め、本多静六博士が構想したスポーツの殿堂とアカマツや桜の公園として、広く県民に親しまれている。その一方、3つの運動施設が立ち並んでいることによる回遊性の阻害や、体育館や水泳競技場等の施設の老朽化、桜の木の衰弱、樹林地が鬱蒼と茂ることによる開放感の低下など、様々な課題を抱え、その対応が求められている。

また、大宮駅を中心とする新たなまちづくりの動きや、都市公園制度の改正など公園を取り巻く状況が変化中、埼玉県を代表する公園として、周辺のまちづくりと一体となった新たな魅力づくりが求められている。

(2) 目的

以上の背景をふまえ、本グランドデザインは、公園のこれまでの歴史を振り返りつつ、県民の意見もふまえ、長期的な視点から公園の目指すべき将来像や、土地利用の基盤となるゾーニングを明らかにするとともに、公園の再整備に向けた基本的な考え方を示すことを目的とする。

なお、将来像の実現に向けた具体的な手法や施設計画、スケジュール等は、今後、それぞれの取組みを進める中で検討していく。

1.2 対象範囲

公園内の整備については、現在の都市計画で公園と定められた区域及びその周辺範囲とする。

また、まちづくりや周辺地域との連携を考慮するため、南北はさいたま新都心から大宮盆栽村、東西は見沼田んぼから大宮駅までの範囲も対象とする。

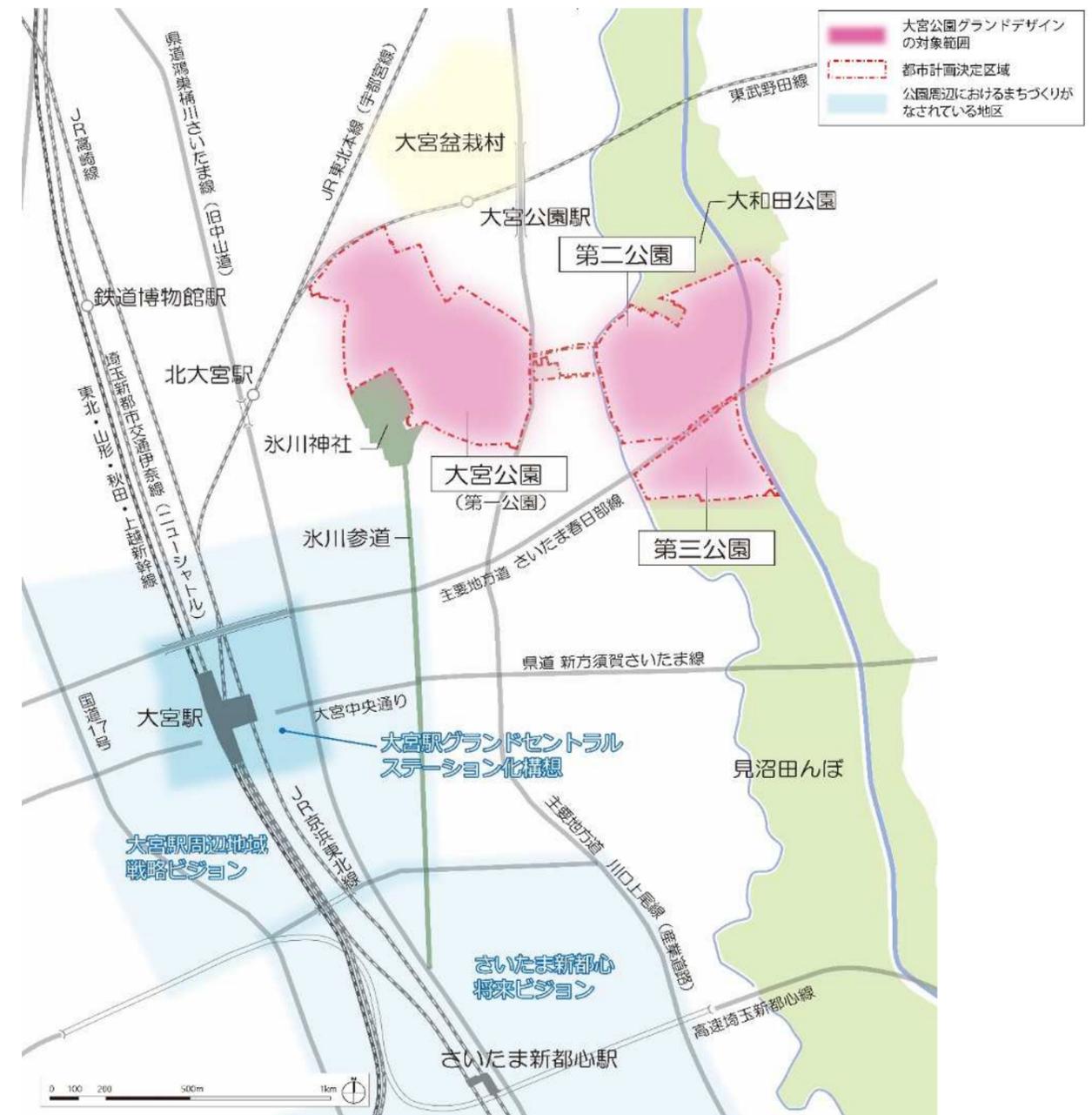


図 1-1 大宮公園グランドデザインの対象範囲

2. 大宮公園及び周辺地域の現状

2.1 大宮公園の概要

「大宮公園」は大宮駅から東北へ約 1.5km に位置する。氷川神社に隣接する第一公園および第二公園・第三公園からなる。大宮公園の都市計画決定区域は 73.5ha であり、現在の整備済み面積は、第一公園が 34.6ha、第二公園が 23.4ha、第三公園が 9.8ha の合計 67.8ha である。

第一公園は、氷川の鎮守の森や、アカマツとソメイヨシノなどが混在する樹林が広がる自由広場がある。また、サッカー場、野球場、双輪場・陸上競技場など大規模競技施設を含む競技施設等が全体の面積の約 4 割を占めている。

第二公園は多目的広場や調節池を中心とする広々とした広場、梅林・あじさい園・菖蒲園など四季折々の花の観賞スポット、テニスコートや軟式野球場等の施設がある。

第三公園は、芝生広場やジョギングコースを有する広場園路があるほか、見沼田んぼの現風景を生かして作られた湿地（みぬまの沼）や、池畔の野鳥観察小屋がある。

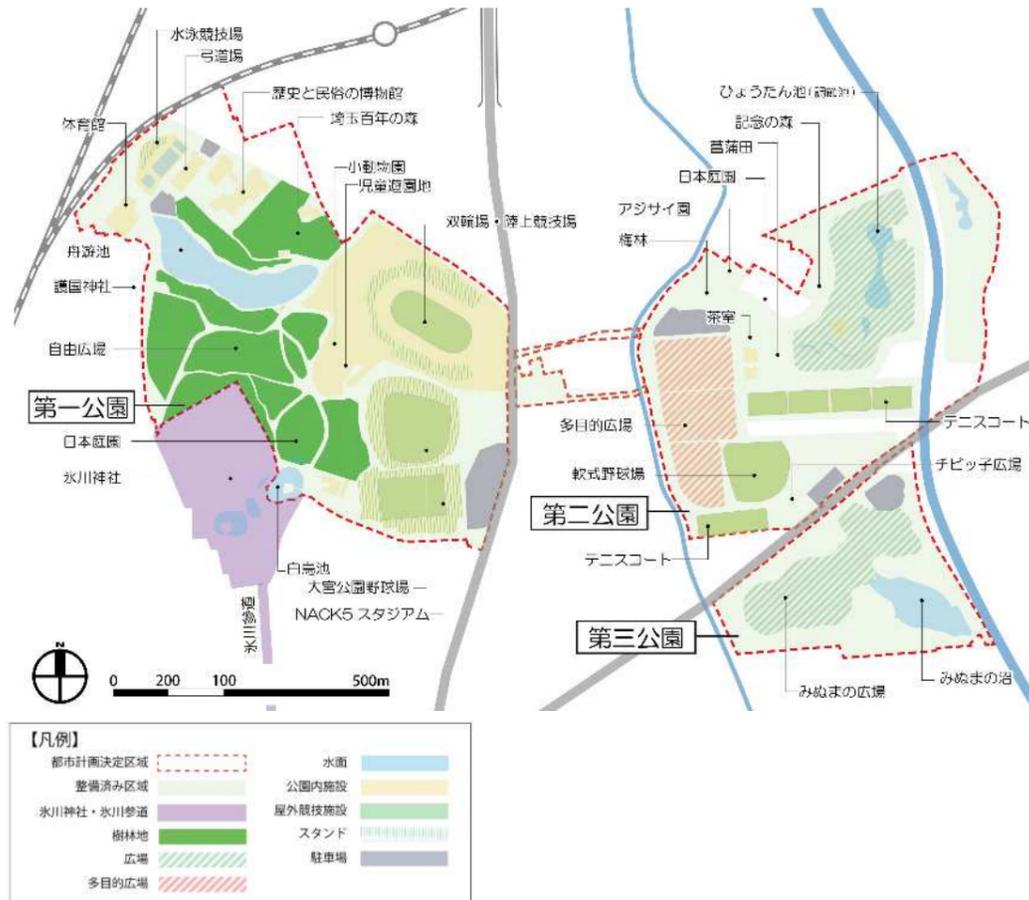


図 2-1 大宮公園の施設概要

2.2 地形特性

氷川神社及び大宮公園が位置する地は、大宮台地上の鼻のように高く突き出た位置にあるため、一体の地名は「高鼻町」と呼ばれる。台地から平地に移り変わる場所では湧水がみられ、現在でも氷川神社の「蛇の池」などでは湧水が確認される。

大宮台地は、比較的海拔高度が高く起伏の少ない平坦面で、関東ローム層と呼ばれる火山灰土で覆われている。関東ローム層は、上部のローム土（赤土）と下部の凝灰質粘土に大別されるが、ローム土は、安定しており比較的大きな強度がある。

土地条件図を見ると、大宮公園は段丘および切土地、埋立地に立地していることがわかる。第二・第三公園は、見沼田んぼを埋立て整備した経緯から、氾濫平野と埋立地からなる。



配色	分類項目	説明	凹地・浅い谷	説明
緑	山地斜面等	山地・丘陵または台地の縁などの傾斜地。	谷底平野・氾濫平野	河川の氾濫により形成された低平な土地。
紫	崖	自然にできた切り立った斜面。	海岸平野・三角州	海水面の低下によって高度が低下した平坦地や、河口部において砂や粘土等が堆積してきた平坦地。
赤	地すべり(滑り崖)	地すべりの頭部にできた崖。	後背低地	河川の堆積作用が比較的及ばない低湿地。水はけが悪い。
黄	地すべり(移動体)	山体の一部が土塊として下方に滑动してきた地形。	田間道	氾濫地の中で農業より古い形状の凹地で、過去の河川流路の跡。
青	更新世段丘	約 1 万年前より古い時代に形成された台地や段丘。	高水敷・低水敷・沼	洪水時に水没する河川敷や、高水で冠水する沿岸地。
赤	光新世段丘	約 1 万年前から現在にかけて形成された台地や段丘。	湿地	地下水が著しく多く、水はけが悪くて悪い土地。
黄	台地・段丘	時代区分が明確でない台地や段丘。	水部	河川・水運線及び水運田水路
緑	山麓丘陵地形	斜面の下方、山頂の谷間または谷の出口等に堆積した、岩塊または火山灰土等の堆積地形。岩塊や石瓦の被害を受けやすい。	田水路	溝・河川・副溝など、現在の水面。
黄	扇状地	斜面の下方、山頂の谷間または谷の出口等に堆積した、岩塊または火山灰土等の堆積地形。岩塊や石瓦の被害を受けやすい。	田水路	過去に海や湖沼だったところを埋め立てによって陸化した部分。
黄	自然堤防	洪水時に運ばれた砂等が、道路沿いに堆積してできた築岸地。	農耕平坦化地	山などを切り開いた農耕地。
黄	砂州・砂堆・砂丘	砂州・砂堆は、現在及び過去の海岸、湖岸付近において波程、沿岸流によってできた砂堆からなる砂堆地。砂丘は、風によって運ばれた砂からなる小高い丘。	切土地	山などを切り開いた農耕地。
黄	天井川・天井川沿いの隆高地	河床が周囲の低地よりも高い河川と、その周辺の隆高地。	高い盛り土	約 2m 以上盛り土した人工造成地。主に海や谷を埋めた部分。
			盛り土・埋立地	低地に土を盛って造成した平坦地や、水部を埋めた平坦地。
			干拓地	干潟や内陸水面を人工的に排水し、陸地となった平坦地。
			改変工事中の区域	国産作成時に、人工的な改変工事が行われていた区域。

図 2-2 大宮公園周辺の地形特性（出典：国土地理院地図（加筆））

2.3 利用状況

大宮公園全体の年間来園者数は約 200 万人である。時期で見ると、桜の花見の時期や梅まつりにはそれぞれ 10 万人以上が訪れている。主な施設についてみると、小動物園や歴史と民俗の博物館等の施設において集客量が多い。スポーツ施設については、双輪場(競輪観戦)や硬式野球場、NACK5 スタジアム大宮に多くの観客が訪れている。

表 2-1 主な施設や時期の利用者数(平成 28 年度)

公園	施設	年間利用者数	稼動期間	
第一公園	硬式野球場	19.7 万人	4～11 月	
	双輪場	競輪利用	41.4 万人	通年
		アマチュア等	0.4 万人	
	水泳場	1.3 万人	6～9 月	
	体育館	2.6 万人	通年	
	弓道場	2.5 万人	通年	
	小動物園	29.9 万人	通年	
	児童遊園地(飛行塔)	4.0 万人	通年	
	歴史と民俗の博物館	13.8 万人	通年	
	NACK5 スタジアム 大宮	Jリーグ	21.5 万人	-
		その他	6.1 万人	
観桜期		13.3 万人	-	
第二公園	テニスコート	11.9 万人	通年	
	軟式野球場	1.2 万人	3～11 月	
	梅まつり、陶器市	10.6 万人	-	

出典：埼玉県公園スタジアム課・さいたま市都市公園課資料

2.4 大宮公園の歴史

大宮公園は、1885(明治 18)年の開園から現在に至るまで、時代の要請に応え整備・拡張を続けてきた。

表 2-2 大宮公園の歴史年表

年号	主なできごと
明治 6 年	太政官布達第 16 号(公園候補地の選定)
明治 18 年	大宮公園開園(当時の名称は氷川公園) 日本鉄道大宮駅開業
大正 10 年	本多静六、田村剛による氷川公園改良計画
昭和 3 年	氷川公園改良計画を受けた本格的な工事開始
昭和 8 年	児童遊園地開園
昭和 9 年	野球場完成
	日米親善野球(ベーブ・ルース、ルー・ゲーリッグらがホームランを放った記録が残る) 埼玉県招魂社創祀(のちに護国神社へ改称)
昭和 10 年	ボート池完成
昭和 15 年	双輪場・陸上競技場完成
昭和 23 年	大宮公園に改称
昭和 24 年	第一回大宮競輪開催(東日本初)
昭和 25 年	飛行塔設置(長岡市博覧会から移転)
昭和 27 年	プール完成、体育館完成(現 百年の森)
昭和 28 年	小動物園開園
昭和 30 年	弓道場完成
昭和 35 年	サッカー場完成
昭和 46 年	百年の森、県立博物館完成
昭和 47 年	新体育館完成
昭和 55 年	弓道場改築
	第二公園供用開始
昭和 58 年	プール改築
昭和 62 年	グリーンハーモニーさいたま'87(第 5 回全国都市緑化フェア)の開催(第二公園)
平成元年	日本の都市公園 100 選に選定
平成 2 年	さくらの名所 100 選に選定
平成 4 年	新野球場完成
平成 5 年	日本庭園完成(料亭石州楼跡)
平成 13 年	第三公園供用開始
平成 19 年	NACK5 スタジアム大宮完成

2.5 大宮公園周辺の地域資源の状況

大宮公園周辺に見られる多様な地域資源のうち、地域を特徴づける主要な資源について以下に概要を整理した。

「東日本の玄関口」としての大宮駅

大宮駅は東日本エリアへのハブ拠点であり、乗車人員数は 25.5 万人/日で全国 8 位である（2017 年度統計：JR 東日本）。

関東 11 都県をめぐる広域観光ルートの重要な結節点にもなっている（広域観光周遊ルート形成計画：観光庁）。

2018 年に策定された「大宮駅グランドセントラルステーション化構想」に基づき、今後、大宮駅の駅前広場を中心とした交通基盤整備、駅前広場に隣接する街区のまちづくり、乗換改善等の駅機能の高度化など、「東日本の玄関口」としての地位確立に向けた取り組みが進められている。

日本の歴史・文化を伝える観光資源

大宮公園周辺には、約 2,000 年の歴史を有するとされる氷川神社、延長 2km の長さを誇る氷川参道、盆栽の聖地として国内外から多くの愛好家が訪れる大宮盆栽村、日本の鉄道史を伝える 41 両の実物車両が展示されている鉄道博物館といった観光資源が点在している。

埼玉県立歴史と民俗の博物館を中心とした半径 1 km の範囲に 9 つの施設が位置することから「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」と称し、各施設が相互に連携し、地域活性化や情報発信力強化を図り、ルートマップ付ガイドブックの作成や、スタンプラリーの実施、地域の魅力を再発見する連続講座などが実施されている。

大宮アルディージャによるまちのにぎわい

大宮公園内の NACK5 スタジアム大宮は大宮アルディージャのホームスタジアムであり、年間 28 万人がサッカー観戦に訪れており、一定の経済効果をもたらしている。

また、大宮駅から NACK5 スタジアム大宮に向かう一宮通りにおいては、歩きたくなる通りづくり、一体感とにぎわいのある商店街づくりなど、様々な団体、企業、行政の協働のもと、地域資源を生かした活動が行われている。

祭典・イベント

氷川神社では年中行事として、毎朝の日供祭、月毎の月次祭など、年間 60 以上の祭典が行われ、多くの参拝客が訪れる。

また、関東一円の氷川神社の総本社、武蔵一宮氷川神社の例祭とそれに合わせた「中山道まつり」、市民が主体となった「大宮フリーマーケット」など、地域のにぎわいづくりに向けたイベントが開催されている。

見沼んぼ

見沼んぼは、東京都心から 20～30km 圏内に位置し、約 1,260ha の広大な面積を持つ、首都近郊における貴重な緑地空間である。

見沼代用水の西縁・東縁には、総延長は 20km を超える「日本一」の桜回廊があり、花見やウォーキングなどの場として親しまれている。

また、市民が野菜づくりを楽しめる市民農園、収穫体験ができる県民ふれあい農園などがあり、都市部では貴重な「農」を体験できる場となっている。

この他、「見沼・さぎ山交流ひろば」をはじめとする公園でイベント等が開催され、交流やコミュニティづくりの場となっている。

3. 大宮公園をめぐる背景

3.1 社会動向

公園緑地政策の動向

- ◇ 新たな時代の緑の政策展開として、緑とオープンスペースによる都市のリノベーション、より柔軟に都市公園を使いこなすプランニングとマネジメントの強化、民との連携などが、これまで以上に重視されている。
- ◇ 都市公園制度の改正により、都市公園の再生・活性化に向けて、民間活力による新たな都市公園の整備手法が創設された。
- ◇ 2020年東京オリンピック・パラリンピック等を契機として、インバウンドの取り込みへの期待が高まっている。

公園周辺のまちづくりの動向

- ◇ 大宮駅は、北陸新幹線や北海道新幹線の開業により交通結節点としての存在感が高まっており、駅周辺では都市計画道路の整備や公共施設の再編、市街地再開発事業などを契機として、市民、行政、企業、教育・研究機関など多様な主体の連携によるまちづくりの機運が高まっている。

3.3 大宮公園へのニーズ

地域の声（大宮公園魅力アップ協議会からの主な意見）

- ◇ 桜の老木への対応・計画的な樹木管理（間伐や植替え）が必要。
- ◇ 赤松や桜がつくる風景や、日本的景観を継承したい。
- ◇ 「氷川公園」から続く歴史や、明治・大正期のリゾート地であり多くの文豪に愛された歴史などを大切にしたい。
- ◇ 周辺施設と一体となったデザインや動線の連続性の確保が必要。
- ◇ 舟遊池のボートを復活させたい。
- ◇ 周辺の観光資源も含めた、エリア内回遊性向上が必要。等

利用者のニーズ

（公園利用者調査における意見）

- ◇ 公園にほしいものとして、「このままでよい」が最も多いが、次いでカフェ（飲食店等）やコンビニなどの売店を求める声が多い。
- ◇ これからの大宮公園に期待すること・改善してほしいこととして、トイレや駐車場の改善を求める声が多い。

3.2 主な関連計画

見沼田圃の保全・活用・創造の基本方針（H7）

【埼玉県】

見沼たんぼについて、その保全・活用・創造を図るため、行政の果たすべき役割を明示するとともに、土地利用の基準を定めている。

首都圏の都市環境インフラのグランドデザイン（H16）

【自然環境の総点検等に関する協議会】

見沼たんぼは、首都圏に残されたまとまりのある貴重な自然環境（保全すべき自然環境）として位置づけられ、将来にわたって首都圏の水と緑のネットワークの中核となることが求められている。

さいたま市緑の基本計画（H19）【さいたま市】

大宮公園は、盆栽村・氷川神社周辺とともに「緑のシンボル核」に位置づけられ、歴史・文化資源と新しい都市空間の様々な緑の融合や、さいたま市の顔となる緑の創出が求められている。

第二・第三公園は、さいたま市の緑の大きな骨格を形成し、首都圏の広域的な環境保全を担う「見沼田圃シンボル軸」の一部に位置づけられ、既存の公園緑地の一層の充実が求められている。

さいたま市都市景観形成基本計画（H19）【さいたま市】

氷川神社、氷川参道一体は「歴史文化景観拠点」に位置づけられ、「氷川神社、氷川参道のみどり」と歴史文化資源を守り、生かす景観づくり」が求められている。

「見沼田圃景観軸」では、「見沼田圃の広がりを守り、生かす景観づくり」が求められている。

大宮駅周辺地域戦略ビジョン（H22）【さいたま市】

「氷川の杜、継ぐまち」の実現に向け、氷川の杜や見沼田圃の生態系の保全・回復が求められている。

氷川参道や大宮公園、見沼田圃などの資源と連携し、その魅力や価値を享受した地域文化を継承しつつ、新たなライフスタイルを創造することで、豊かな都市生活を営める地域の形成が求められている。

さいたま市見沼田圃基本計画（H23）【さいたま市】

第二・第三公園は、防災機能の充実や、斜面林、芝川、公園等の連続性の確保が求められている。

大宮公園全体として、環境整備により生態系を拡大する方針が示されている。

さいたま市総合振興計画（H26）【さいたま市】

大宮区の将来像として「うるおいのある高度な生活基盤と氷川の緑と文化が調和するまち」が位置づけられ、「氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信」、「氷川の杜や見沼田圃の自然の保全・憩いの場としての活用」などが求められている。

さいたま市都市計画マスタープラン（H17 策定、H26 改定）【さいたま市】

「みどりのシンボル核」では、みどりの拠点を結ぶ回遊ルートや一体的な緑化の推進により、さいたま市を代表し、魅力を創出するみどり空間の形成が求められている。

さいたま市観光振興ビジョン（H19 策定、H26 改定）【さいたま市】

さいたま市の観光の課題として「観光資源の連携」が挙げられ、市内での滞留時間を延ばし、経済効果につなげていくためにも、観光資源の連携を図り、回遊性を促進することが重要とされている。また、連携させることで相乗効果が期待できる資源として、大宮盆栽村、大宮盆栽美術館、漫画会館、武蔵一宮氷川神社、大宮公園、歴史と民俗の博物館等が示されている。

首都圏広域地方計画（H28）【国土交通省】

大宮は、東日本からの多種多様なヒト、モノが実際に集結して交流する東の玄関口となる国際的な交通結節点として、連携・交流機能の集積・強化を図るとともに、首都直下地震の発災時の首都圏のバックアップ拠点としての強化を図ることが位置づけられている。

大宮駅グランドセントラルステーション化構想（H30）

【さいたま市】

大宮駅周辺の都市機能の考え方として、「東日本の対流拠点に相応しく、氷川の杜、見沼たんぼ等の豊かな自然環境が感じられ、風格と品格を備えた景観形成」が位置づけられている。

まちづくり・景観・環境・観光・防災など多くの分野において、豊かな緑・オープンスペースを有する大宮公園の果たす役割が期待されている。

4. 大宮公園グランドデザインの検討にあたり考慮すべき事項

4.1 5つの要素（大宮公園の特性）

大宮公園の特性として、「緑地・空間」、「歴史・文化・芸術」、「水系」、「スポーツ・レクリエーション」、「にぎわい・交流」の5つの要素を整理した。

緑地・空間

広域的な環境を支えるみどり

- ◇ 68haの広大なオープンスペース：中心市街地の中の貴重なみどりであり、ヒートアイランド現象の緩和や都市環境の改善に貢献
- ◇ 首都近郊に残された数少ない大規模緑地空間である見沼田んぼ：遊水地としての機能や広域・都市レベルの骨格を形成

生き物の生息・生育空間

- ◇ 樹林地や草地、湿地など多様な環境：都市の生物多様性を支える重要な役割

地域のアイデンティティを育む景観形成

- ◇ 氷川神社と一体となった社叢林や樹齢100年をこえるアカマツ林、約1,000本のサクラの疎林など：歴史を象徴し風格ある景観を形成
- ◇ 「大宮二十景」（ハナミズキの並木道など大宮公園に関するスポットが7箇所選定されている）：大宮区民が愛着を感じる景観を形成

安全な暮らしを支える空間

- ◇ さいたま市の広域避難場所：災害時に危険から身を守る重要な役割
- ◇ 公園内の河川調節池：芝川の洪水を調節する機能を有しており、市民の安全な暮らしに貢献

歴史・文化・芸術

見沼の歴史

- ◇ かつて「神沼」「御沼」とも呼ばれた広大な湖沼
- ◇ 江戸を水害から守る「治水」と農業用水を確保する「利水」の歴史
- ◇ 江戸時代中期に新田開発された大規模農地

氷川神社の歴史

- ◇ 2000年を超えるとされる歴史を有する
- ◇ 大いなる宮居としての大宮の地名の由来ともなる国内屈指の古社
- ◇ 「水」に由来し、大宮台地端部の湧水が信仰対象

行楽地としての歴史

- ◇ 熱海と並ぶ東京の奥座敷として、休憩施設「含翠楼」、料亭「方松楼」「石州楼」、「遊園地ホテル」等がかつて存在
- ◇ 春の桜やワラビ狩り、夏の螢狩り、秋の松茸狩り、冬の雪見の絶景など四季折々の風流

文学・芸術

- ◇ 多くの文学者が訪れ、作品の舞台や絵画の題材として取り上げた地
- ◇ 有名な建築家・故前川國男氏による設計「埼玉県立歴史と民俗の博物館」

水系

湧水がつくり出した池

- ◇ 大宮台地の縁辺部にあたり、湧水が多様な池を形成
- ◇ 大宮公園のエントランス部分にある白鳥池
- ◇ かつてボート遊びが行われていた舟遊池
- ◇ 神が宿る池とされる神池、蛇の池、御神水（氷川神社）

見沼につながる池沼

- ◇ 芝川の洪水の調節池として整備されたひょうたん池
- ◇ 見沼の湿地を再現したみぬまの沼

スポーツ・レクリエーション

歴史ある競技施設群

- ◇ 本多静六博士らの計画した大運動場のあたりに、競技施設が建設
- ◇ 日本初のサッカー専用球技場、東洋初の近代的な施設として建設された競輪場
- ◇ スポーツイベントの拠点（Jリーグ、プロ野球、高校野球、競輪の観戦に多くの人々が来園）
- ◇ テニスコートや軟式野球場、体育館等は一般市民のスポーツの場

健康づくり

- ◇ 周辺の芝川や見沼田んぼなども含めたウォーキングコースの一部
- ◇ 散歩やサイクリング等の場として、県民の健康づくりに寄与
- ◇ 青空ヨガ・キッズヨガなどのヨガ教室、スポーツフェスタ等のイベント

レクリエーション

- ◇ 幅広い世代が楽しめる多種多様なレクリエーション・学びの場（ピクニックや水鳥・野鳥などの自然観察、遊園地、小動物園等）
- ◇ 花とみどりを楽しみ、体験する文化の発信拠点（七夕飾り、夏の虫観察会、ひまわり種まき大作戦など親子で楽しめる様々なイベント等）
- ◇ NPO法人の活動により、「大宮プレーパーク」（冒険遊び場）が開かれ、子どもたちが自由に遊べる場が提供されている

にぎわい・交流

氷川神社

- ◇ 年間600万人の参拝客

スポーツ

- ◇ Jリーグ、競輪、プロ・アマ野球の観戦客

季節の花の観賞・イベント

- ◇ 「桜の名所100選」に選定
- ◇ 第一公園の桜、見沼代用水沿い、芝川沿いの桜並木など、多くの花見客でにぎわう
- ◇ 白加賀・八重寒紅梅を中心とする約40品種500本の梅
- ◇ 梅祭りのにぎわい（陶器市やお茶会、コンサートなど様々なイベントを同時開催）
- ◇ 連絡通路のハナミズキや第二公園のアジサイ・ショウブなど四季を通じた植物の鑑賞

4.2 2つの視点と5つの方向性

(1) 視点

大宮公園ランドデザインにおいて重視すべき視点を以下に示す。

大宮公園のポテンシャルを最大限に生かす

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然、歴史、文化、伝統など、大宮公園ならではの魅力や、緑地・オープンスペースの多機能性を、市民や企業などとの連携のもと、これまで以上に発揮していく。

新たな時代の要請に応えていく

社会が成熟化し、市民の価値観も多様化する中、魅力あるライフスタイルの実現や、個性と活力ある都市づくりの実現など、新たな時代の要請に応えていく。

(2) 方向性

大宮公園の特性及び周辺計画との関係、大宮公園へのニーズや社会動向をふまえ、ランドデザイン検討にあたり考慮すべき方向性を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観、歴史の継承

大宮公園には、氷川神社と一体となって風格を醸し出す社叢林、桜やアカマツの疎林、見沼田んぼに連続する景観といった、歴史的な風景が残されている。

一方、樹木が老齢化している、公園内が鬱蒼として薄暗いイメージがある、池の水質が劣化しているなど、問題も生じている。

氷川の杜や見沼田んぼなど地域の自然や歴史・伝統を保全し、後世に引き継いでいくことが求められる。

魅力ある公園文化の創造

大宮公園では古くから競技施設が建設され、多様なスポーツが盛んに行われてきた。スポーツをめぐるニーズやトレンドが変化する中、今後も時代の要請に応えるスポーツの場として、広くスポーツ文化を発信していくことが求められる。

また、かつての大宮公園には料亭や旅館があり、多くの文人墨客が訪れ、風流を楽しむなど、文化や芸術が育まれる場であった。近年、施設の老朽化や魅力低下など様々な課題がある中、民間活力の導入など新しい手法も取り入れ、魅力ある公園文化を創造・発信し、地域住民や来園者のライフスタイル実現の舞台となることが求められる。さらに、日本を訪れる外国人観光客が増加する中、外国人観光客にも魅力を感じてもらえる公園づくりを進めることが求められている。

みどりの機能とオープンスペースの確保

大宮公園は、市街化の進んだ都市における貴重な緑地であり、ヒートアイランド現象の緩和や生態系保全など、環境面において重要な役割を果たしている。また、災害時における避難場所や復旧の拠点となるなど、防災面での果たす役割も大きい。

また、現在の大宮公園は、第一公園、第二公園及び第三公園と区分されているが、新たな大宮公園はこれらを一体的に捉え、公園間のネットワークを強化することで、オープンスペースとしての機能をさらに高めていくことが求められている。

持続可能な公園運営のしくみづくり

超少子高齢化社会に突入し、公共事業の予算や人員の確保も厳しくなる中、行政のみでの公園管理には限界がある。

こうした中、民との連携によるパークマネジメントの推進や、多様な主体が公園運営に関わるしくみをつくることにより、持続可能な公園運営を行う必要がある。

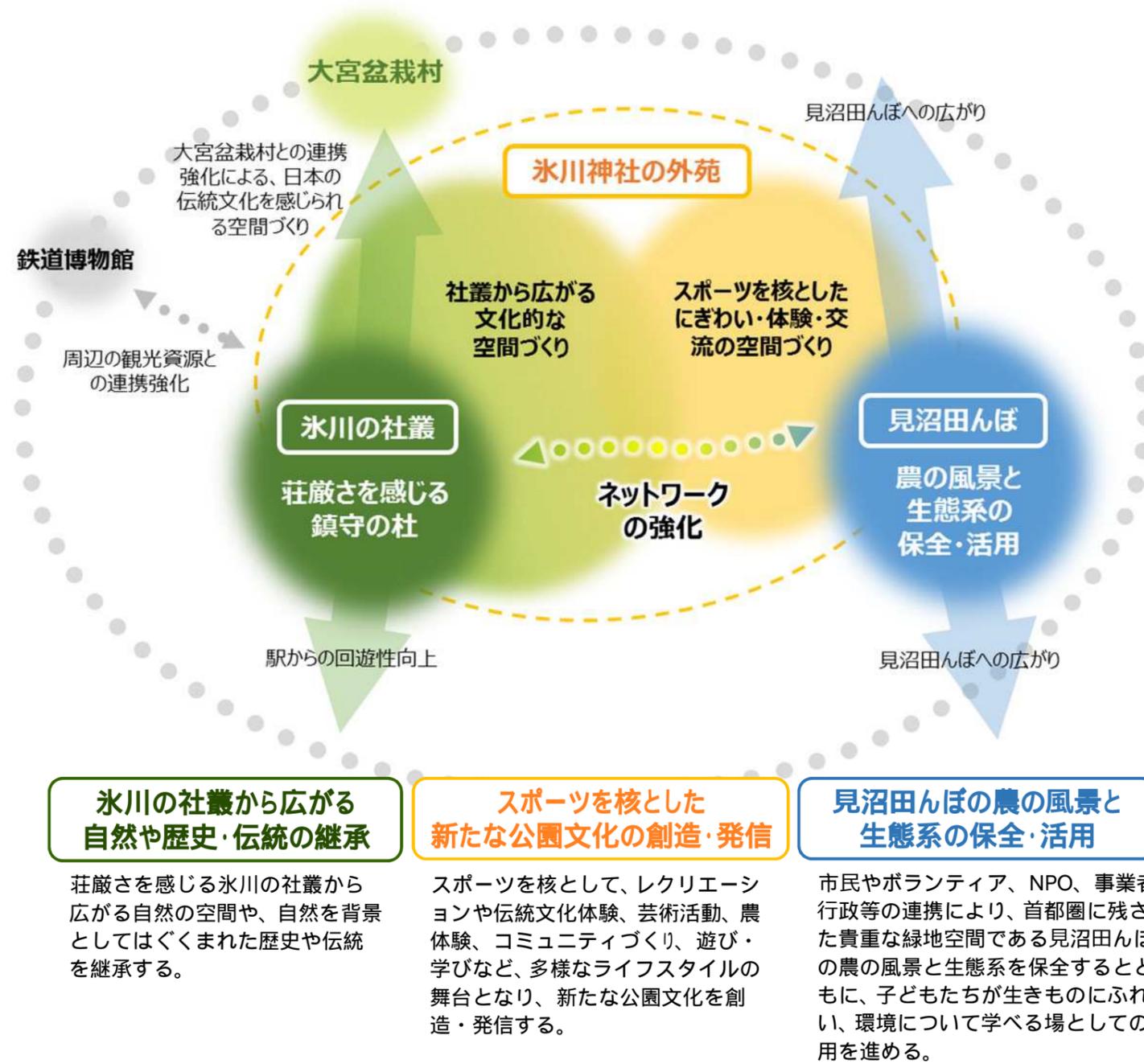
公園を核とした地域のにぎわいづくり

大宮公園は、東日本の玄関口たる大宮駅にほど近く、一方で周辺には閑静な住宅街も広がっている。また、大宮公園周辺には魅力的な観光資源が点在している。

このような地理的条件をふまえ、エリアマネジメント導入など地域との連携による公園の魅力アップ、大宮駅からの回遊性向上によるまちの魅力アップ、さらには、周辺の観光資源との連携による地域の魅力アップを図り、大宮地区のにぎわいづくりに資することが求められる。

5. 大宮公園の将来像

みんなで作くり育てる、氷川の杜から広がる“大宮グランドパーク” ～都市の公園から 世界にアピールする公園都市へ～



< 将来像のイメージ >

- 地域の緑のシンボル「氷川の杜」と「見沼田んぼ」が引き継がれるとともに、氷川神社の荘厳さや武蔵野の雑木林の面影、見沼の原風景など、歴史・文化が感じられる魅力的な公園として、国内外から多くの人々が訪れている。
- 大宮の中心部に残された貴重なオープンスペースとして、多様な機能が最大限発揮され、住民の快適で安全・安心な暮らしに役立っている。
- スポーツをはじめとして、文化・芸術活動、美しい景観の中での休養、自然とのふれあい体験、環境学習、農体験など、自然や歴史・文化を感じられる活動の舞台となっている。埼玉県全体の公園の魅力アップのけん引役として、魅力ある公園文化を大宮公園から広く発信している。
- “大宮グランドパーク”のブランドイメージが確立されるとともに、行政のみならず県民や民間事業者など多様な主体のアイデアが活かされ、社会のニーズに応じた公園づくりが行われている。
- まちに開かれた新しい公園が生まれ、公園を核としたまちのにぎわい・交流が生まれている。また、周辺の観光資源との連携や回遊性の向上により、まちの新たな魅力が生まれ、公園都市・大宮に魅了された多くの人々が、国内外から訪れている。

図 5-1 公園づくりの考え方

6. 将来像の実現に向けた施策

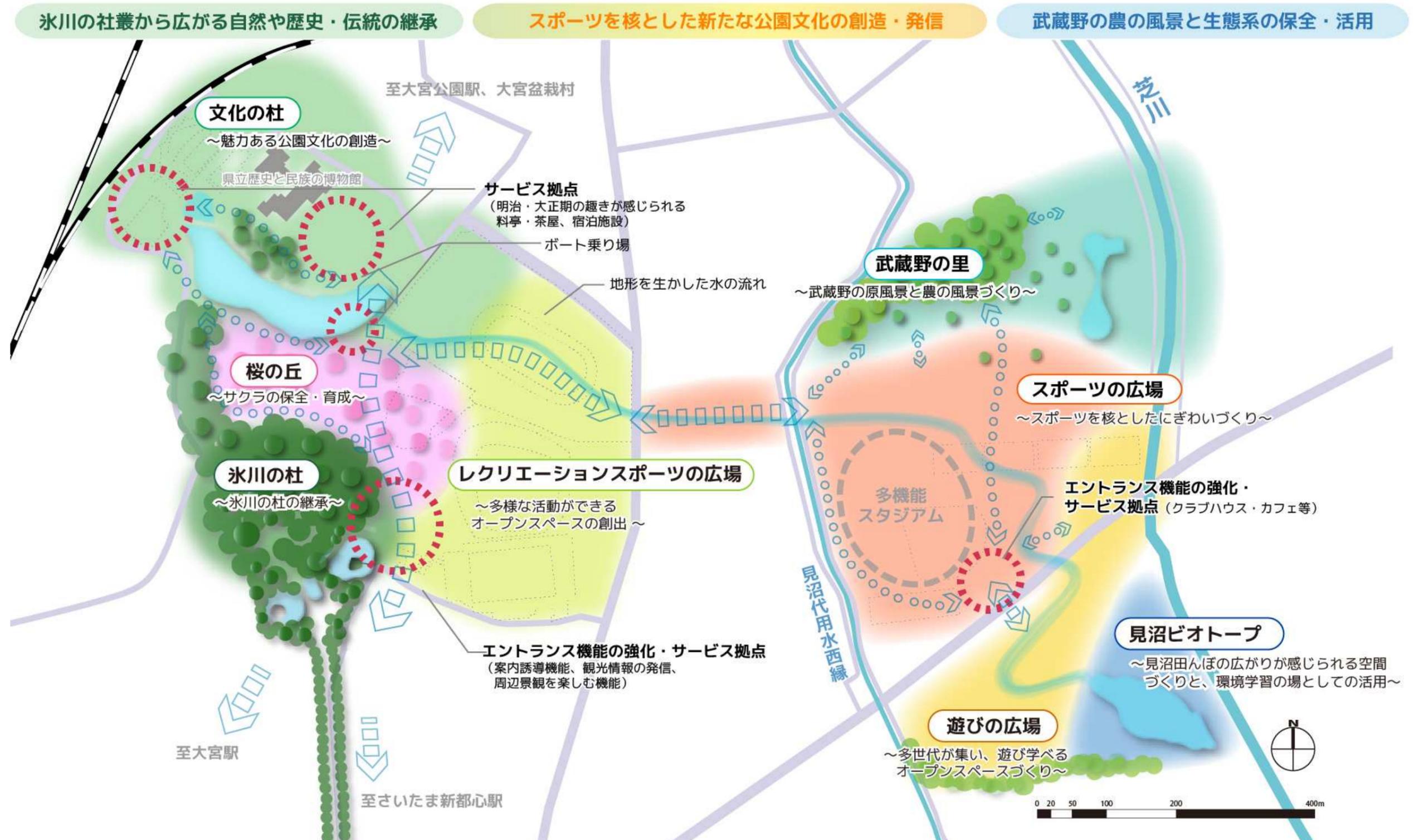
将来像の実現に向けた施策を以下に示す。

氷川の杜や見沼田んぼなどの自然や景観・歴史の継承	みどりの機能とオープンスペースの確保	魅力ある公園文化の創造	持続可能な公園運営のしくみづくり	公園を核とした地域のにぎわいづくり
<p>風格ある氷川の杜の保全・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成 ◇ 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備 <p>桜の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な密度管理による見通し・明るさの確保 ◇ 老齢木の計画的な間伐・植え替え ◇ 桜守ボランティアと連携した桜の維持管理 <p>アカマツ林の保全・育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成 <p>見沼田んぼに広がる雰囲気・空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 見沼田んぼの広がりを感じられる空間づくり 	<p>氷川の杜と見沼田んぼをつなぐ生態系ネットワークの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川の杜と見沼田んぼを結ぶ空間づくり <p>生物多様性に配慮した公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 生き物の生息に配慮した園地整備 <p>親水空間の再生</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 池の水質改善 ◇ 水に触れ、親しむことのできる空間づくり ◇ せせらぎなど水の流れの再生 <p>四季折々の表情が楽しめる空間づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 季節を彩る樹木や花の植栽による景観づくり ◇ 開園期の武蔵野の雑木林の復元 <p>防災機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 防災機能を有する施設の整備（屋根付き広場、大型休憩舎等） ◇ 河川調節池を活用した防災教育プログラム 	<p>時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 多様な活動に対応できるスポーツの場づくり ◇ 民間との連携による運動施設の整備・運営 ◇ スポーツ・レクリエーションプログラムの実施 <p>魅力的な景観づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 舟遊池を生かした景観づくり ◇ 博物館周辺の景観づくり ◇ 視点場の確保 <p>おもてなし機能の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ エントランス機能の充実 ◇ 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置 ◇ 外国人向けの日本文化体験プログラムの提供 <p>宿泊や飲食機能等の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Park-PFI等民間の資金やノウハウを活用した便益施設の整備（茶屋、カフェ、料亭、宿泊施設等） <p>世界に誇る文化・アートの発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 文化・アートのイベントの開催（トリエンナーレ等） ◇ 文化・アートの発信拠点となる教養施設の整備 <p>一日を通じて公園を楽しめるしくみづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ ◇ 夜を楽しむイベントの開催（ナイトツアー、ナイトキャンプ等） ◇ 公園の朝を楽しめるプログラムの実施（朝ヨガ等） <p>誰もが安心して安全に楽しめる公園づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ ユニバーサルデザインの推進 ◇ 多言語に対応したガイドシステムやサインの整備 ◇ 誰もが利用しやすい安心で清潔なトイレの整備 	<p>プロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 駅・空港等における公園のPR ◇ SNS等を活用した四季のどこでも紹介やタイムリーな情報発信 ◇ 公園のブランドイメージづくり ◇ 民間と連携した大宮公園ならではの土産物などの商品づくり <p>民との連携によるパークマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ Park-PFI等民間の資金やノウハウを活用した公園施設の整備 ◇ 民の参画する協議会等によるパークマネジメントの検討・導入 <p>多様な主体が公園を運営できるしくみづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ アダプトプログラム等の導入 ◇ 気軽にボランティア等を体験できる機会づくり ◇ 市民団体によるイベント等公園プログラムの運営 ◇ 市民や民間事業者等の企画提案を受け入れるしくみづくり ◇ 多様な資金調達手法の検討・導入 	<p>公園を核としたエリアマネジメントの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 大宮公園周辺のまちづくりと連携したエリアマネジメントの検討・導入 ◇ 見沼田んぼとの一体的な田園空間づくりに向けたエリアマネジメントの検討・導入 <p>周辺の地域資源とネットワーク強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 氷川神社や周辺の商店等と連携した取組み（まちバル、マルシェ、フェス等） ◇ 公園を拠点に周辺の観光資源を結ぶ回遊ルート整備（マップ作成、サイン整備等） ◇ コミュニティサイクル等の活用を通じた地域の回遊性向上 ◇ 周辺駅や氷川神社等から公園に人々を誘導する取組み（サイン整備等）

7. 将来像のイメージ

7.1 将来像のイメージ

将来像のイメージ（ゾーニング）を以下に示す。なお、本イメージは、公園の基盤となるゾーニングや備えるべき主な機能の概略を示すものであり、詳細な施設の諸元、デザイン、設置場所、具体的な機能等については、今後検討していくこととする。



7.2 ゾーンごとの施策

氷川の杜

氷川神社の社叢林の風格や荘厳さが感じられる空間をつくる。施設整備にあたっては、その外観は和のテイストとするなど周辺の景観との調和に配慮する。

<主な取組み>

- ◇ 氷川神社の社叢林と一体となった景観づくり
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 氷川の杜の風格と調和するデザインによる公園施設整備
- ◇ エントランス機能の充実
- ◇ 公園の歴史を来園者に伝えるミュージアムの設置
- ◇ 氷川神社や北大宮駅方面からの来園者を誘導する取組み（サイン整備等）

文化の杜

舟遊池や博物館を生かした文化的な空間をつくる。舟遊池周りの美しい景観づくりや、ポート遊びの場としての池の活用を進めるとともに、飲食や宿泊等のサービスの提供により、公園の魅力向上・にぎわいの創出を図る。今ある運動施設や売店等の施設は、老朽化が進行し、その役割を終えた時点で撤去する。

<主な取組み>

- ◇ 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- ◇ 博物館周辺の景観づくり、視点場の確保
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 池の水質改善
- ◇ ライトアップ等による夜の景観の魅力アップ
- ◇ Park-PFI等による便益施設の整備（カフェ、レストラン、宿泊施設、貸ポート等）
- ◇ 文化・アートの拠点となる教養施設の整備
- ◇ 文化・アートのイベント誘致
- ◇ 季節感を演出する樹木や花の植栽
- ◇ 大宮公園駅方面からの来園者を誘導する取組み（サイン整備等）

桜の丘

主にサクラやアカマツを中心とする明るく快適な広場空間をつくる。動物園、遊園地、売店等の今ある施設は、老朽化が進行し、更新が必要になった時点で、撤去あるいは移転を検討する。

<主な取組み>

- ◇ 樹木の適切な密度管理による見通し・明るさの確保
- ◇ 老齢木の計画的な間伐、植え替え
- ◇ 桜守ボランティアと連携した桜の維持管理
- ◇ 適切な維持管理によるアカマツの保全・育成
- ◇ 舟遊池を生かした景観づくり、視点場の確保
- ◇ 適切な維持管理による樹木の保全・育成
- ◇ 水に触れ、親しむことのできる空間づくり
- ◇ 氷川神社からの来園者を誘導する取組み（サイン整備等）

レクリエーションスポーツの広場

主に来園者が主体的に行うレクリエーションスポーツの場として、多様な活動が可能オープンスペースを確保するとともに、誰もがスポーツに親しめる施設を設置する。今ある競技施設は、施設の老朽化が進んで安全な使用ができなくなる、利用者が減少して継続的な利用がなされなくなるなど、施設の役割が終える時点において、その後のあり方を検討する。時代の趨勢に応じたスポーツの場を、利用者の意見をふまえて整備する。また、今ある競技施設の歴史は、大宮公園全体の歴史においても重要であることから、その歴史的な価値を後世に伝える。

<主な取組み>

- ◇ 時代の趨勢に応じたスポーツの場づくり
- ◇ 多様な活動が可能オープンスペースづくり
- ◇ スポーツの場としての歴史的な価値を後世に伝える取組み

スポーツの広場

主に来園者が観戦する競技スポーツの場として、スポーツを通じて人々が交流し、にぎわいのあふれる空間をつくる。新たなスタジアムを設置する場合は、このゾーンを予定地とし、民間の資金やノウハウを極力活用する。その機能は、競技エリアと観客席等からなる従来のスタジアムの機能だけでなく、飲食、宿泊、教育、医療、福祉等、地域のニーズに応じたサービス機能を備えた多機能スタジアムとすることで、試合が行われない日においても施設が稼働し、年間を通じた収益の安定的な確保を図る。また、収益の一部を公園運営に還元するしくみとする。なお、競技種目については、民間事業者による提案や広く利用者の意見をふまえ、その時代の趨勢に応じたものとする。

<主な取組み>

- ◇ Park-PFI等民間活力を生かした施設（スタジアム、クラブハウス、カフェ等）の整備
- ◇ 多様な活動が可能オープンスペースづくり
- ◇ スポーツ・レクリエーションプログラムの実施

武蔵野の里

武蔵野の原風景を再現し、季節に応じた自然の変化や彩りを感じることのできる空間をつくる。また、里山の生活をイメージした農体験ができる場をつくる。

<主な取組み>

- ◇ 武蔵野の雑木林の育成
- ◇ 季節感のある樹木や花の植栽による景観づくり
- ◇ 果樹の収穫など農体験ができるしくみづくり

遊びの広場

幅広い世代の人々が安心して楽しめるオープンスペースと、子どもの創意工夫を引き出す遊び場をつくる。イベントやピクニック、マルシェ等のイベントを通じ、にぎわいを創出し、交流を促進する。遊戯施設や教養施設のほか、大規模災害にも対応できる休養施設を整備する。

<主な取組み>

- ◇ 多様なイベントを開催できる広場の整備
- ◇ 遊戯施設、教養施設の整備
- ◇ 防災機能を有する休養施設の整備（大型休憩舎等）
- ◇ 市民団体が主体となったイベント等を開催できるしくみづくり
- ◇ レクリエーションプログラムの実施

見沼ビオトープ

見沼の原風景を生かし、さらにその先の見沼田んぼへの広がりを感じられる空間をつくるとともに、都市部における貴重なウェットランドとして、生物多様性に配慮し、地域の生態系の保全を図る。また、県民が生き物にふれあい、郷土の環境について学ぶことができる場とする。

<主な取組み>

- ◇ 見沼田んぼの広がりが感じられる空間づくり（みぬまの沼とその周辺）
- ◇ 生態系に配慮したウェットランドの保全
- ◇ 環境学習や生きもの学習等のプログラムの実施